果　　樹

１　りんご

（１）日焼け防止

近年は温暖化の影響と思われる日焼け果の発生が多い傾向です。対策として最も効果的なのは、南～西日が当たる側面に寒冷紗を設置することです(写真)。毎年日焼け果が発生するわい化園地では設置を検討しましょう。また、着色管理でも日焼けを助長しますので、注意してください。

写真　　寒冷紗による日焼け果防止

（２）着色管理

早生種では葉摘み、玉回しの時期となります。葉摘みは１回目を軽く行い、収穫７～14 日前に２回目を樹冠外部は果実温の高い日中に実施するなど天候に留意しながら行います。玉回しはある程度着色が進んだ頃に行います。急激な強い着色管理は、果実に日焼けを発生させますので、日中の温度が高い時は樹の上部等の日当たりのよい箇所を、その前後の気温の低い時は、樹の内部や下枝を行います。曇天が続く日に行うと玉回しによる日焼けの発生は少なくなります。

（３）落果防止剤の散布

りんごは、品種によって果台と果柄との間に離層形成が始まり収穫前に落果するものがあります。８月から収穫できる「夏明（なつあかり）」「つがる」も収穫前に落果しますので、収穫前に落果防止剤を散布します。落果防止剤は、品種や剤の種類により使用濃度、散布時期等が違うので、使用に当たってはきちんと確認して下さい。

（４）シンクイムシ類の防除

シンクイムシ類の重要な防除時期です。被害果は土中に埋めるか園外に持ち出し処理します。スモモヒメシンクイは８月以降すもも園等からりんご園に移動すると考えられていますので、すもも隣接園は注意をして下さい。

スモモヒメシンクイは、卵期間が短いので、被害が予想される園では通常より散布間隔を短くします。特に、発生が心配される園では、８月は 10 日間隔で殺虫剤を散布してください。

２　ぶどう（無核短梢栽培）

（１）新梢管理

８月になっても、樹勢が強いと副梢が発生して棚面が暗くなります。棚面が暗いと、成熟不良になったり、薬剤がうまくかからず、べと病等が発生しやすくなります。こまめに園内を見回り、副梢の摘心をします。また、巻ひげは黒とう病の伝染源となるため、柔らかい今のうちに除去してください。

写真　　ナガノパープル

（２）かん水

「皮ごと食べるナガノパープル等」は、果粒軟化期以降に土壌を過剰に乾燥させると、果肉が軟化し、果皮と果肉が分離しやすくなります。そのため少量多数回のかん水を行い、土壌水分の変動を抑えることが重要です。

３　もも

「川中島白桃」などの主力品種も収穫期を迎えます。果実の熟度は、品種、樹勢、着果位置等で違うので、大きな果実に注目し、地色の抜けぐあいや手触り等総合的な判断により、熟期を把握します。

果樹試験場における６月６日時点での収穫期予測（「白鳳」）では、収穫始めは平年より６日早い予測となっています。ただし、生育期に曇雨天が続いた年では果肉が先熟し、成熟日数が短くなり、逆に高温乾燥が続いた年では早生種で短く、中晩生種で長くなる傾向があります。収穫の目安は、次のとおりです。本年は特に、園地や樹勢によって熟度が異なる傾向があるので、収穫が遅れないように注意してください。

１　成熟日数（果樹試験場における昭和５５～平成２２年の実績、満開日～収穫最盛日）

白　　鳳　：　９７～１１４日（平均１０５日）
あかつき　：　９６～１０９日（平均１０５日）
川中島白桃：１１７～１３４日（平均１２７日）

２　硬さ（果実硬度）

（１）硬度計で８ポンドが目安
（２）手触りの感覚は、適熟期になると適度な弾力を感じるようになる。肉質が半溶質又は不溶質の品種は軟化の進み方がゆるやかなので、手の感覚では判定が難しい。

３　色（果皮の光沢）

（１）「白鳳」「川中島白桃」等：こうあ部周辺が緑白色になった頃
（２）「あかつき」「なつっこ」：地色の抜けが早いが、地色が白色に変わった頃

４　その他

（１）果実の鮮度保持のため、収穫は早朝など果実温の低い時間帯に行って下さい。
（２）収穫果は通風の良い木陰などに置くようにして下さい。
（３）着色や硬さなどをよく観察し適期収穫に努めてください。

４　な　し

「幸水」の収穫期を迎えます。適期収穫に心掛け、過熟果とならないよう注意します。

１　収穫開始日数　例年だと満開後１２０日頃から

２　果皮色

（１）食味を重視した収穫適期：カラーチャート値「２．５」（全農作成カラーチャート）
（２）高温期の収穫であり、流通形態により日持ち性を考慮した場合：「２．３」

３　糖度　１２度以上でデンプン臭がないこと

４　その他

（１）えき果芽の果実より、短果枝の果実の成熟が早い。
（２）果そう葉の少ない果実、樹勢の弱い樹、高温の年には熟度の進みが早いので注意する。